

國同盟、日英同盟等より遂に世界大戰に至るを叙し、世界史の諸問題は漏さざるをつめ世界戦争後の記事に於てはなほ百數十頁を費し本書の四分一を占めたり。大戰以後の世界形勢を觀るによろしく、本書の價值たるこの要を摘みて終始大勢の變遷に注意せるものも、亦此所にあらはれてゐる。本書は學校に於ける西洋史教科の參考書たるのみならず、一般讀書界に於て要を得たる近世世界事情通觀の好著として歡迎せらるべきものである。(大同館發行、價三、五〇)(西田)

● Histoire et Historiens depuis cinquante ans.

1876—1926 1927—28 Paris Felix-Alcan.

今日佛蘭西の有力な學術雜誌たるRevue historique が G. Monod 氏によつて創刊されたのは一八七六年の事である。氏は一九一二年に歿したが雜誌は今年五十四週年を迎へた。本書はその五十週年を記念して出版されたもので、過去五十年間に於ける世界各國の歴史研究の發達を論述し、上巻は獨乙を始とし歐洲の二十四國を含み下巻はアメリカ支那日本を載せ、その他に古代東方、埃及、

印度、希臘、羅馬、ビザンツ、回教等に關しては諸國を通じての歴史研究の概要を記して居る。各國及び各部は夫々專攻の士が分擔し、例へば獨乙は維納大學の Dopson 氏、佛蘭西はボルドウ大學の Halphen 氏、支那及び中亞は H. Maspéro 氏等が筆を執つて居る。日本に就いては三田氏が當つて居るが修史局の設立の頃から初めて史籍集覽、國史大系の刊行等を述べて明治末年に及んで居る。本學に就いても「古文書」「考古學研究報告」の出版や「史林」「藝文」の刊行の事を書いて居る。勿論八百頁足らずの書冊中に四十餘の部門を含む故詳細を盡して居ないのは言ふまでもなく、編纂者も決して完全なるビブリオグラフィーたらしめる考のない事、單に歴史研究に關する學者の業績、史料の編纂、學會の狀況等の概要を示さうとしたに止まる事を斷つて居るが、讀者にはや、物足りない感を抱かしめる。又諾威、チエツクスロヴァキア等に就いての記述が佛、米、伊等のよりも詳細である事も我々に至つては遺憾である。然し取捨は略々當を得て居り、古代埃及の年代等に就いては特に詳説して居る點等

は親切である。それ故是を以て權威あるビブリオグラフィに考へる事はできないが、最近に於ける海外の歴史研究、特に史料の編纂、遺跡の發掘等について簡單に纏まつた知識を得るには好適であり、その點は明快に要領を得て書かれて居る。又索引のない不便を忍ぶならば簡易な參考書解題の代りにもなり得るから一卷を備へるだけの價值は充分である。下卷にはカーネギー學團のLamont氏が歴史研究の國際間の聯絡に就いて一文を寄せて結を成して居る。着實な努力を以て過去五十年間を學界に貢獻し來つたRevue historique 誌の記念出版としては誠に相應しい又意義ある編著であると共に、各國知名の學徒が夫々立派な論文を寄稿して居る事は同誌の誇でもあらう。(上下一卷、七五八頁、百法〔猪谷〕)

●愛知縣史蹟名勝天然記念物調査報告第七

愛知縣發行

本冊には歴史時代遺跡として大高城趾、鷺津、丸根等の砦趾と碧海郡矢作町の北野廢寺趾等を擧げてゐる。北野廢寺趾は大和の山田寺趾と其の規を一にして、磚佛及

び土塔を出土してゐることに於いて注意するに足る。又た原史時代として井戸田おつくり山、田代城山、村上おざり山、守山東山、神明宮、村山、丸山、長樂正八幡宮等の各古墳を紹介されてゐる。就中おつくり山古墳は最近の發掘にかゝり、漢式鏡、鈴鈿、三鈴等を粘土槨に推定せしめるものから出土してゐる。

●古備古瓦圖譜

玉井伊三郎編

岡山縣下三國に點在する備前、備中、美作の國分寺を始め奈良時代と推定せしめる十四寺、平安時代及び以降とする十六寺、其他を合して約百三十點を圖版十八枚に收めしものであつて、同地の古瓦研究の上に確實なる資料を提供するものと云へる。(岡山市小橋町、玉井氏發行)

●魏子窩

東亞考古學會發行

昭和二年四月から五月に涉り南滿州魏子窩管内碧流河畔に行はれた東亞考古學會第一次の發掘には東京京都兩帝國大學、關東廳、朝鮮總督府兩博物館の外、中華民國北京大學の諸氏參加し、その調査作成は主として京都帝國大學考古學教室これに與り、その論述は同學の濱田教